



花傳巻  
六

手多12  
1.544  
5



門多12  
1344



物まの乃高あく管の流く〜  
はる乃かんも〜あれいそ志あ〜くをうふも  
た〜あむ〜凡何事〜をもものこさ人よあ〜  
せんり中意なり然とも又〜れよわて涼き  
浅きを去る〜したとひ本〜わす〜やき楹汲  
なとの風情ももなりほ〜きわさな〜も人き  
りう進すわ〜か〜らん志〜くを〜みきま  
〜きなり上乃目よみゆ〜あ〜ひも〜み〜い  
〜や〜して物〜ろき取〜今〜ひ〜き〜う〜  
よ〜く〜

一 如神凡わ〜りいわりき志して乃た〜あ〜も〜  
似合〜る〜也さ〜わ〜あ〜〜是一大事〜也ま〜

志こそ見くゆきれハ見所あく女侍あうい  
 ふとのそ内あつるまひ見るすあけまひあうい  
 きぬえかぬきあういあういあういあうい  
 つののかりあういあういあういあうい  
 たやまうあういあういあういあうい  
 不かりあういあういあういあうい  
 拍子あは拍程あういあういあういあうい  
 かういあういあういあういあういあうい  
 めいあういあういあういあういあうい  
 とあういあういあういあういあうい  
 うふあういあういあういあういあうい  
 わういあういあういあういあういあうい

さういあういあういあういあういあうい  
 うふあういあういあういあういあうい  
 見すあういあういあういあういあうい  
 中帯の時乃るあういあういあういあうい  
 とらあういあういあういあういあうい  
 まあういあういあういあういあうい  
 あういあういあういあういあういあうい  
 老人乃拍あういあういあういあうい  
 余あういあういあういあういあうい  
 大事あういあういあういあういあうい  
 老あういあういあういあういあうい  
 こわあういあういあういあういあうい

ふせおきいやくして上よと尸ふ是せおき批判  
おわかしわきなりりりきぬ老人のまうこえ  
くくき人あうてい何合々い警吉のく入  
も物よ似まへしくおききまをいうまをく  
をのまなりまゆくろひてまをくまゆへし

一物狂はるの才一の面白き藝能也物くはひの  
志あくおかけ進いび一乃たたらん連者の  
十才へわくるへくりくくく勅束の入  
へきくくあまなり似合はき物の志あくく律  
仙乃とりめ生呆死呆あまいもはき物の神話  
まあ人いたよりあま親子の別を子娘くまの  
男よまえられはまをくはくか積乃思ひよ

狂人する物狂一大事一也くやうこれおひひの  
志てもいよまけすてくく一通はたこく  
知とよ思る人のかんもあ一思ひゆ人乃もの  
くはひをまゆくおましく物物もあまきまを  
かさよあてくくあ両を花よあてくくあま  
入てくはへいもかんあちて足取定てまへき也  
かやうなるまゆくくあまはれなるあま  
無極乃上よとまゆへ一是をまゆく思ひわく  
へ一凡物狂乃出まおあひうらやうまおく  
へき事一せいあまきりあう物狂まこま  
まて時よよりて何とも花やうおくくへし  
時の花をりあまきんへ一又云物まきま

とむすしめ事あり物狂いつき物の本意を  
 くはふとりの人其物狂なとの或い意うたう  
 志やうき志んふとの所くす何うりもわろき  
 了りなり所き物乃本意をせんとして女わり  
 あくいうわぬまい見所ふあつひ女わく里を  
 本まよまま進い所き物のる理あり又男わりよ  
 女あとのよう母事しも同し料管なるへし  
 能行く所人は料管あき事し也統いびんちよ  
 ちやうしたらん書手なさやうりし似ありぬ  
 事しをいあくことあはましはさうあんをも  
 んり能作人の秘す也ひこ面乃ものくはひ  
 能をきとめあうひていすふあはましき也

かん志よくをうまよあさひの物狂い何まえ  
 ころとくあまくてはりかきしきをうゆまの  
 みるまぬ所あり物まひの奥儀ともす所へし  
 大事乃申樂なとま袖い乃人の斟酌すへし  
 ひこ面此大るし物狂の一たるニ又儀一ひま  
 あして物しるき所乃むよあてん事しめ何  
 程乃大事しうやうしく警言あるへし

一脩雅こま一弥此物也よくあま進せれもしるき  
 とまま進なりさのともあまましきなり但源平  
 なるもの名のあは人乃りし花鳥風月は能り  
 らせてままよけ進い何よりも又おもしろく  
 是ら花やうなる所ありたしこま進ある

備後乃く依ひまゝ色正れを鬼に振舞ふあは  
なり又舞れまゝも曲舞かゝりありハ正し  
舞ありのまはうひよろうり依へしゆゑやあ  
らひ返らるる人てもち物返あてりさうりごと  
う此時やうけうひやうまうくくうひてりま  
ま人もたらくへしあひあまへて何えさうま  
まゝ舞のまよなるところを判らまへ  
一 祢元は拍ま子の女がり也何とあくつらまは  
まうあひあまの祢元まよりて鬼あゝりり  
あらんもくあゝりりまゝ但しことかゝるまは  
本意あり祢元はまひのかくま乃風舞まろ  
鬼まさうま舞かゝりのたよりあまゝ祢元  
つらふも祢元まよろまきやうまら出くけ  
たかく祢元出拍まかくそい祢といあせんま  
まゝけまの衣袈をかきりてあめんをけくろ  
ひてまへ

一 鬼是又しとさう大和の拍なり大車なり凡  
幽冥行き拍あとの鬼の面白くたよりあまの  
やすあひしうひ返めりけてまはらふまは  
けくひてえさうけい拍りまきたよりありあり  
まゝのめいとの鬼城まゝあまのわらう  
まあひの面白きとさうまゝまゝまゝこと  
大車なりわさあれハまをけくおろろ  
うらうしけまきまろまきといまかまきり

祢鬼の物まき子大きなる大子也くせんり  
にきて面白く候まきる理ありたうろき  
西本意なりおろろきと面白まきと案  
黑白のちうひなりさまの鬼の物もしろき  
あらん志ていきとめくる上まともPへき  
さわりあうろれも思わしをくせん物  
ことさう花を志くぬ志てなるへき  
わくま仕よの鬼いふく志くわとは見ゆま  
さうと物あうろ鬼うりくせん物い鬼の  
物うろ候まきる理ありたうろき  
あらん志ていきとめくる上まともPへき  
一唐乃事一是い凡各別の事一あまのさうて

警古まき題目ありておちなる  
る一物をも同一人とPあうろわり  
たらんをまき一やうりやうり  
風神をりつてさうり仕よは似あ  
物なりておちをうりやうりするあて  
まてあ一何とても書曲さうきも唐抄  
とりふ子減は似せたりとも面白まき  
風神まきい品大史まて也今撰志はP事  
あとうりわそめあうりさうり劫束なわ  
何事一ういやうてさう候まきと唐  
やうなる何とく似まきあまのり  
まひは風神かりりてあまのさうひ

やうしうめよまきはやくてうまよある也  
大形物まのの糸く以上九十ヶ条は外こまの  
なる事一の世く一ちあららんじとをこ  
よく究めたらん人のをの流くうあなる  
あるへし

一向柝申樂ををむるは南日子のうまてまの  
ゆき成足て吉函をうひて志る事一のり  
あふ事一のや 答是大事一なるみちよえ  
たう成人なうていひたうひ先き日の存を  
見ると日一のあよくお米へきおくお米  
へきすいさうまへしこまPか一我々の  
う智をわて見ると糸又考人の清あかとの

申樂よ人群集して座敷のまをさふ  
ちとみうおもく万人乃の一回よをうと  
あくを足るとまは時成をて出く一勢を  
あられやうさきも時分乃調子うつり  
万人乃うう仕よのうう振舞よ和合して  
志とくと志とい何とするもむ此申樂の  
まよ一うあう申樂の貴人乃のけを  
中とすといも一早く清におあふ時一のやくて  
ち一めすとい叶ひのあやとみ見物高の  
度あいまこまの或いをくれをせあ  
うて人のう志とらうて万人乃のいまこ  
終よあうは志といさうあくととあ



あつた様あらん時の終は拙をなかりて出候  
しも白紙より多くとありをもしくろひのち  
あるまひ風情を人目より横おひきくくと  
まへしきね志所めんうる也ささる  
あらんは清きそも終更うれ考人の清らるよ  
あひそん風情をまへしきねいふなる時乃  
つき終十かよよりらんるのあへましくある  
ましきなり終す考人の清きよりあへはまて  
あまの肝要なり何とてもしきたや志所  
まうてその清く志こころみわろきまあ  
されいさしきれきあひをくれもらんへて  
見る事うれるよ長せさうせひといさうあ

志るましきなり又云兼乃申樂いたこと替る  
なりよ清いをろくろしき定て志め候也  
昼の二番よつき終の終は乃脇子まへし  
日きれ申樂志めりたちぬきいろれまき終い  
なをくひつふもくつき終をとまへし歌を  
人そうくあまのひるれ申樂いのちりく  
よは乃申樂いさしきり志めりちぬきいろ  
時分さうかし秘儀云掠一切の陽の和もる  
ところのさうひは成就とは志るしき終乃機い  
陽のき也されまゆよも志つめし終成せんと  
あつたといひ陰陽の時分りし陰陽機を賞  
をろくろし陰陽和を心なり是終のまき

成就のち一め也物の一ろきとらるるころなり  
和の陰をまじひつらよもくうきくくくやうて  
よき能をまじひし人乃ころの花めく陽也是  
和の陰子陽接を和する成就也さまじひ陽接の  
陽と陰接子陰とせ和す体取まじひきれい  
成就あはまじ成就あくい何う面白からん又  
ひるのうちみくも時ふまじわて何とやうん  
座敷を志めりてさみきやうまあうん  
陰の時とわけて志何まね接はわけてすへ  
昼いりやうよとまきよりて陰きよなる事  
あまは夜乃接の湯にあうせよいたたあくま  
まじき也座敷をうりて見るとは是あるへ

一同能は席破意を何とらるるこむへき 卷のまじ  
やすき事なわ一切のこむに席破意あまじい  
申樂も是同一能の風神を定むへ先更さの  
能は中説くくきこもの志とやうあはり  
さのこまはうふあく音曲わわと大うこ乃  
風神まじするくくやすくまじし第一能云  
なるへうふもよきわさのあなりとし祝云  
うけていああへわくひたとひ能いおほき  
なわは祝云なりいんあうあまは是席破意  
くるゆへ也二番三番りなわていねくう風  
神乃よき能をまじし神更意よまじいもみよ  
せてよ教成入てまじし又及目たものわきの

能よけなきのふりきよかんきほ風神をまへし  
あくのふきをのほ日あとのあちちとりーん  
あへてとへー

一回能の勝負此よりあひひ乃よそこのつらふ  
答よまは肝要なわまらつ能敷をゆつて敵のふよ  
らわらる風神をちうへてまへー席云言るを  
おたしーあめとらんこまをわいし藝能の作者も人  
あまきまのつらなる上よも心のまうあくひ自作  
あまのいことと案ふるまひ東乃うちなるわはまき  
能をせんちとれ物乃和戈あつて能を作らん  
事一安つはあつてはるの命なりまきいめ何女  
上よも能をもたさらん志してい一孫南千乃兵

たわらも軍陣よそし兵士のたわらん是れあ  
さまのいさうら乃精買合よみゆへー敵す  
つらめきつら能はまきい志のりーもやう  
替りて見とら乃あ能をまへーか積よ敵の  
能より人てまれのつらなる敵あれ能うけま  
ともさのまよばまらあーあかまぬまの  
勝負の治定あるへし勝負は侍ま之

一回是よ大なる不審ありたや功入つら志しての  
志うも名人なるよ只今わりま仕女乃を合よ  
うつら是ある也あま也 答よまきうらまきま  
尸所る三十のあ乃時分のたまあれいあるま  
仕承乃たま花うきてこや中あ海時ふよめつ

くき花より橋事あり眞実の目きく見  
わをへさあく目きくめきく此批判の  
膳負よなるへき色さりあうやあり五十  
以来まて花のうせきうを仕よはわあは  
わりき花なりわうつるあはまうき  
かとの上手の花れうせうゆ人よまう  
ありわあは名木なりわむの咲ぬ時乃木をや  
らん犬様一言なりわもとの花多くとさける  
をやらんうやうのたをわもあ時ハ一旦の  
むなりわうちあひよ勝い理なりさきいゆ要  
ふるいう花り能のいのちあはを花うさる  
ももきくはもとの名受えりわをたためし事  
あへき志て乃あへむくあやまりなり物教  
なる似せうる花乃馬様をもあうきうせい  
花のさうぬ時の草木をあつめらんうし  
兼木千草よをわて花の名もあことあきせ  
物りうくとんるうあおあ花也物数  
すくあくとも一す乃花を免究たらんして  
一神の名受ひうはへはきいぬ此  
うはあは花ありとあへとも人の目よ見ゆる  
うあんあうらん田舎のうあ乃さくくの  
うううみさきて白りんりことうまう同  
上よなりわともきうちうてきうあうたごひ  
あはきんめうる上よ名人なりわはば花乃大吏

花

十一

おらん仕女もていとどるかのちりまていりける女  
なりたまをきくめこん上女いたとひのい  
さり家とも花の跡るへーむふのころの  
面白一期をへーされまことのむの跡る  
ころしてよはひのわりのき花なりともうら  
るのあるまききなり

一向能もえそくともそこもきころよをとわりは  
仕女も一むきつ上女よまごわりころ取あり是の  
上手れせぬの叶りぬやこん又すまききふく  
きぬやこん 答言一さい乃事よえそそそ  
きうとくえころところある也位の中さり  
たききこきいりかたぬ事ありさりなり

まよにたま乃きくまりたこん上女なりと  
何のむきともせきうせききいのかと大夫を  
究めころして万人の中は一人もあきゆへ也  
大夫のあててまん志んありこきをみる人も  
まも不知上女の名をたのこ連者もかくは  
わろき取をも志しゆいよき取乃こぬく  
とも見きまへまされの上女も下女もたつひ  
ころぬへしをき能と大夫とをきくめたこん  
是をきくへしはかろるをきくたなりとも  
よきおありといつ上女も是をまたふへし  
是才一の女こそ也もよきお城みこわりとも

わきより下よなるいれをまき浄穢あつても  
 こゝろよけなくさくきそ我わろき所をもつ持  
 志るまきなわ下よ色上よ乃王ろき所も  
 みしの上よおもひまきあわいりんや初に  
 さのわきあまいさうじろきとあわゆる  
 ろめと思ひてこまをたうまて人よもころは  
 大夫をいつさいつきく警古よなめて能い  
 たりやくあうあしりさいあくてあま  
 王ろき取なまきまきもを慢いあつて  
 わろき所をもま実志しぬ志てあわへ  
 よき所をしり録いまろきところをも  
 物もあなろ吉程よ年いりとも能いあつて

なり是則下よ乃心なりされの上よまたも  
 なり慢あつていさうはへいりんや叶りぬ  
 浄穢をや能よさうあへておへ上よ下よの  
 よ中世と大夫と下よ乃よき所成とりて  
 上よの物敷よ入る無上至極乃理りなり人の  
 よきところをや警古いれよ浄穢いあつて  
 とは是也

一回能よ位乃善あ成なる事いりん 答こま  
 同きくれまのりあれそしきよ十ろわれ  
 能志りもなのまにあは凡神あり但けいこ  
 ちろせいをのまきと位ありとつてけいも也  
 まろけいこれ切入て位あらんいれ名聖なるわ

又生好とつあいつけ也うきとつあつた  
 ずりれおえ人けとかさと哉同やうり  
 物りあせうきと尸の物もの一きりきあひか  
 かしち也えうきと一切はわくる代也志して  
 おのもの也我ちさうる幽玄よばあさ志しての  
 たけのちあり是の幽玄すぬたけずりまこ  
 初いの人思あへしけいこは位哉んかきん  
 返くあああま一位の縁こうかをて判けいこ  
 志かうかもさうかへ一兩程ううおたけとば  
 生好の事よて得すてい大形かあま  
 又響古乃切入てあり落おきい位をのきと  
 おまうりあり響古といき曲いちうきよめ

まのうもりの志あつくちきままるもの樹なり  
 よくくあんとそ物もあは幽玄乃位い生好の  
 物りけころ位い切入うりありん中よ素を  
 めくく一問文字よ高流とは何事うや答是  
 こまうりなる響古なり能もあつくのうきひ  
 といい

一法あまし上よりあつくあまし下さあし事  
 ありを時い大夫志和上下あまうりつて  
 あましの上面あましつてし得面いこき  
 面うてを信小神あて統言を中入よりすり物  
 たりりこ進信あ乃能のきこ也  
 一せう此新但志乃つり人本くわすこやき塩汲

きうししたもとのあき乃きうやうあまわりあこ  
うくあき翁を志乃じきよさきをうろへ  
あうあめのすをおへしきんへしうわ  
そめもほまくれを升すとい中しおぬ抱也  
云あふきのさうやう所中人志不くおとの  
新いつひのこくみおへさまへしりやき  
せうの勢よき人のうりよけんけうらにおよ  
あふきさまへ

一志分くむ桶乃る根よびひく下云分一物と  
あんちやうよてさうき橋をきんていり  
天ああとりきてしう金薄あ結梅うさて  
をくへい同桶のおのあさきかちん黒葉

むよくれを升案志ろきなるを中しせぬ也  
う砂留流いくまをゆる太和かりそ外余乃  
座よつき恨ゆる不審よらうけた落案乃  
所きぎぬるとりあ時いくまをむよらけを  
とは謡ふあうひよけともとこり  
仕舞もるる升一不審なちとくうへひと  
仕舞とおなりいひりこころつくらる

一瑞木曲舞あふきよてまあしあゆみき  
あて舞事ありか此舞懐い男はうきを  
んこへいといふ所より瑞木あくまひつて葉乃  
戸所一冬乃時つまこのおへり歌いさそよあけ  
けしこまこくとまうんまねとりしり



綿木を返してゆき時又崩りて舞うてそは  
 如くふらうり綿木こともふらぬへきと  
 のふらうり大まつこれまらゆきうれとき  
 綿木をとめ仕舞をあうけまはあやの時  
 まきくをけまのおまて推うめさうふ  
 けまを見て綿木返さうり又云綿木をけま  
 あげつけはもあり是うりあふきまてまふ也  
 一三編當流いれ樂のうちまへまてまひ五へを  
 すてく舞まあまき時あふきまてまふ是今春  
 如くりまをめらあふきまて舞まは座の  
 わらち也中入のお女僧部へ衣取まるとき  
 仕舞まき衣取とりつてまはへうとあけ

けまを時たま衣乃うまらうりたのみまら  
 衣取まあまのままていへきあま舞也  
 ままの清いと海まらうりつひてまら  
 ありり一足二足とは時まらうりまら  
 けまいけまはま住人うまもま也世まら  
 衣をまらうりまを仕舞あはまらいあは  
 へきまや僧部の時まらへ女乃まはまら一  
 けまのまはま上ままあまの水くまてまら  
 まら女あれい明まら上まらまらまらまら  
 まらまら女まら時まら僧部まらへ下まら  
 まらまらまらまらまらまらまらまら  
 仕舞まらまら

一 うとふ大夫わさへる衣の袖をときそわくは  
仕舞あり是あつひあり大る也袖振わきへ  
渡す時れわくし振習ひありわづあさうよ  
あゆむりとをううよさうしちやくと  
わく世居よ人のするいりきこる人乃云傳  
をし物しあやよんて結句わきよのり  
志こしき辨あり幽冥のせんあし是物とて  
かふんたき海人のわきなりわきなるひの  
ことなり同くおまれば経文渡もとも同お  
わくしうてたち乃きあつしさうよ見とる  
事しあつひなり

一 うげ乃仕舞面乃仕舞とつふありうげは

仕舞とはつうへ乃うんさをす及ひそ人の  
まをす仕舞の事なり面の仕舞とつひ  
わらうのるをわきとて仕舞乃事しひとれ  
うんさをまなふ仕舞きんさいの我乃仕舞  
こちもちちうふしう乃事しと渡りなる  
さうなりめくは傳さへし

一 海士の玉の照うとあ乃きり狂言ありときて  
舞事あり如獲乃たかくひ物知し能なる人の  
ふうげよさやうの狂言し自然似たる所乃  
あきもろもたしあむし

一 鬼舞ひやうの事しつらも刃取ゆりうけ  
あつしとつうくあむし

一 舞のうち下より乃ちや一も一はまひすきい  
そ時乃舞やうのころを略してさやうくうふ  
おまへ一さき立ちもさや一を俄におきへらく  
位ちうひたちまぢろくもや一むむううてき  
まげもあき物なわらも也返こさやうのとき  
舞をさ一かくぬるるあうひ也勅別位能とも  
あまりののぬ離いたやくとあさるむむよ  
鬼うくの事一多あり現在此鬼めいと鬼  
女の鬼惡具乃鬼とて人あとの惡念めて鬼よ  
なりうらあわさふ志やたいてんく是赤色く  
ちうふへ一ときたうさいたうの位いつま  
へもわさるへし

一 や燈の宮そふ車よのゆのあたのあ一より  
一 同くさるよ繁うた乃あまうは是いたより  
一 三輪乃中入乃及みうけあうふみしたまふ  
うそ大更作り物の中より舞くくわさ一はる  
うらて居舞中也由舞よもるもあや又ゆく  
物乃中よそまう一成うけて居見うけあ  
くふんく物あしてゆく返とせうりさ一此  
あひひさ一をがきしぬりまうよこまをとち  
つけての仕舞腰うけあうありて位をひ  
ちて志こひゆ、の何さより舞也と進位を  
ひく志こひゆくとつあ候よ合きて物  
るきゆちなり曲舞乃ち一めうり舞うても

およそのしるき仕舞をかくらん舞はん辛勞  
みく面白らんをてしつゝき侍るゆめらんり

一面を見るやう乃事一まる面乃おぢひ辰とわ

面のうちよあせめん此結をつけら辰辰の

まよとりて太のまを流き見へ一是の考人の

流おやくの足様也回をさういまのゆまへ

一大辰急節一上をうけ此事一高流のあへ二筋

みゆるやうまかゝ流也太和の一筋うろへ

二まぢミゆるやうふかゝ流也

一面の木のゆひやううううううううううう

ううを二まぢなううのきやゆふもあゆ一筋

あへへなわううあ乃うへふゆあこと中也

一中おの面わり男の面かりりいまゆのあると

あきことりりり也まゆのあるとはままのけ

うきあまの一又まゆすまかぬまはまの兄のけ

あきことへ一右乃るりめなわ

一呪と童子めんといれあ一うろあまこと

かりりらあいちこいけたうきうかをせまて

是もま兄のけうきあまゆすも辰とくなわ

又童子乃面のかからんあまゆよけさくあ

みくまかまうま兄乃きりまあり

一めん此事一あまゆあこと一まのまうめまて

あき物なわまことあううまみふらきこと

あまうまのまきことまけうう色様見く流

一 とき物也よきかとのあるきむよ

一面の弦の事 女面の縁男面のあききせし乃  
めんい志ろ鬼の敷いひつまきもあり

一面のうけやう乃事 とうひよ作り人の

と一えいひく流乃事 けを流く可くもよく  
りけ二十四五の時乃事 作れらるのよよ

わらたごこあともよあまーくらわら男の  
十八九う弁也か横の事 しくいけへし

一 狩て乃見だき三つあり真草乃也まの乱進  
かこの功もていなるわらきことなるわひき

さへるうありさくぬるありやうひありこあ  
もちあ家事也付るこれ乃舞が乃るたま

あーを右存よよらひあけらさて明進よ急の  
足をよむ時足とゆへ又大夫快く足をたる

時よりみとゆへもありまうとゆへり物も時  
ありあき時もあり真草乃よよ家へし

おりの小袖乃う人よう一考するあり習ひ  
口傳あり

一 考の備りきむしききのあ衣きるるあむ  
僧の位よよりききへし

一 むしききれあ衣大夫きるるり同お是も終よ  
ゆくり一人乃位よよりてきるへしむきと

一 案乃といきせぬ物也ちやうきん舞きぬ同お  
一 物程れお立ひやく急もてぬきうけらるへし

百葉をよみよきなり一坂きらつくらるきよなり  
ま人を押りてり又の志つらきなり一ぢりり  
りきおりあとの中しきぬよなり

一たせをよみよきなり一めき志ろきうたきぢよる香の  
肉乃ませをとりの儀なりぬの取梅乃ちやう  
きんぢよるいよきひよませとの女けきぬあ  
の多乃をあそめあらんみとりの儀なり

一大臣よき女よき乃名乗る人の位なり一ちりて  
も一大臣あとの名乗る人のわきさなり  
よかしのひらりへおしこき奥の乃大事なり  
うやうのりよはりあはるひ也のたし

一うつら帯代事一香流のひと人也大臣がりの  
志こりけとつひてあへするなり又つきの  
くくく芳きさくは平をうと人なせも他能  
よりてめきほもよ

一大臣乃出立二人の一人い乃うわきぬぢよる  
かよきの色をう人もやうけたかきりりきぬ  
ぢよる

一僧乃三人のいかる能あり二人の同一名此  
水衣うらへかよき僧乃位よりりてのり  
あ人もやうのひらるのの水衣きま

一三輪乃及のわきたいまいきぬ大はきんのりき  
おりらるだきりおちひらる乃上よりけ  
へ一舞きぬのりらるの黄なるり白きり本なり

一百番乃更々當流ハ上下マシテ様トコワキナリ  
太和カケリ備ワキ也

一 女抽籠のねがひあつゝのうけ持乃すあまり  
うらき女しゝのねがひかつゝ乃とくよはく  
ろひさうはくくかほよはあひたかく  
うてかほくねがひあともあふゆきぢよ  
うらう乃ゆといふゆひうらきさうのねがひ  
小袖下へかくー

能乃舞臺の橋カケリ之事

一 大庭乃舞臺ハ二尺四寸ひさし一尺うらあし成  
へしえんのたうき五尺也舞臺のくねアヨ  
一 尺あまり並てうき五尺あまりは垣をさる

物ナリ左橋乃たうきえんのうとての仕舞ハ  
あまうちあくみまの能あさくなる抽也うれ  
うんひやく志の能あとい下うり見あけうて  
あちあのうきハ一人をよせまーきたらぬ  
又ハ時のつひるノ口端なとの羽さよも  
うれうんさやうよためき舞臺あしハあま  
を雨ハ能をんしぬ也うてハ以垣を羽る也  
一 中ハ舞臺ハ二尺五寸也是れもひさしハ  
さうらあしハ一尺是れ舞臺うり一尺並て  
くはちよたりき五尺ハとのうきさへし  
あしりへも人のうりゆきハぬやうヨるな  
ゆひきりてぢよ縁乃たりさ四尺也

一 小庭此のふあとい二 四の舞臺もよくい  
 こまもひさしハきうりあう見合あるへ  
 四の乃少といなるいさき居座いえんをい  
 まへしふたい乃えんのささ三尺

一 橋かり此長さ此事大庭の十三三十一  
 なる中の九月七也いあきい又るなり  
 ぬきんよりいあくうてい能なりあ  
 ありりまあこのあうひい持あきあ  
 なるあけきよていあうさあすのまあ  
 たりともまきえんより橋のあひこ  
 やりありいかり能乃かんより也

右いつてもき乃横子なり流乃能い

あ横子替はしりきなるのさ

流見物雨のあうあうよははし

一 流あの内能乃舞臺は正面は庭へきさ  
 ありこまい舞のうちよあま流あへめ  
 ありう此時のためなりきさ橋とを  
 をうぬものなり

一 庭あ乃あ舞臺は板板乃うつりう  
 もり舞臺をたかく板ををる也

右舞臺のありの圖大也

一 ひろきふたにいせをきあ  
 中乃橋かりりききりありき橋かり  
 うらあ相應乃仕舞の内もりも  
 肝要也



一のひごもあく似くら仕舞きぬものなりゆく  
こゝあまこころゆくへ

一女能よりこぞ我ぬささ釵我ぬく仕舞あはれい  
いもちあへへ一脩羅あとのよせいちうあへへ

よく分別あへへ一他世のこころもちゆきすき  
んつゝ又仕舞よまなくまへへ一はたあんなう也

一夕うやよよすあまこころあはれあはれゆき  
あはれ源氏を見たりゆくゆくてんゆくへ

一うろかまうひらゆくとつあま見ちゆり  
あはれ座のまよあはれよく口傳るあへへ

月待かとのうとねとつあおあ繁りりり  
ありうろこあ見らる事ひらことなりわきさ成見

あへへ是いたるまてしが空の月乃るあまあへへ  
か横乃たくいづる建の能もたあき事なり

あへへ一是を以何も分別まへへ一あへ  
わさるへ

あまつ建まこころ人大夫よりせいのたりき人  
は建まこころぬ物也りつあへへ一きものなり

一建ま大夫と同一せいをまこころひくきむら  
一たさあき人乃大夫よたをか見まこころ

そ時の月さ此家乃事一は持あはれわきみりこ  
ゆりも大夫城ゆときは見えをゆくこころい

みみくき物也そのはたあも也又功者のわきま  
たちこころあへへは仕りあはれあき人あだゆり

あるまゝにせんそ見あたらせりんよう也

一 弓きのいのり乃事 席破急あへりめを  
志ろく小珠教をもすりつよも習をとをく  
とりをなをさへし中比破あまきていのり  
後を急あいの心へし急あますり時志由を  
さへくもあをく新るへし但のふよ  
よあへし善果毎弁をすとい新りおより急也  
る成ちあふの上大形同いお席破急ある新り  
なわばい持つて急へもわさへ

よろしの能れいもちの事

一 能れい持おんそから時我牙を祓と思ふへ  
くふもけとあくめりへ

一 鬼わりの牙を鬼と物あへしつよもつりきる  
ころをもちつりるるあひ也

修羅のころろもちまくをあけらときらくさ  
く人おは時のころろもち回あ

一 女わりの牙を女房と物あへしおひあををも  
ゆらくとてころをもつろふも志りうふ  
つそくくの女神よりあるものなり

一 仏あとの能我牙を佛と思ふへしつろふも心成  
神勝よもちてけとあくつりへし

一 幽冥我牙を幽冥と思ふへしつろふもく心と  
なちくとめりへ

たろれくの能心もち大さめひられ

い持あくるく人の能より進しく乃のき  
あひあし右に持肝要也い何の能も  
是を以て別あはへしあつれたる所の  
いをあたま進よむち物するきあいの  
ましくもちのきむ所のいさめきくの  
いもちあはるうなり

一陰の能いもち乃のり物そを陰より陽よ  
い乃へし左扱よりく人の能あめりすきと也  
一陽の能乃心持のり物もては陽より陰よ  
あへへし左扱よりく人の能あめりすきと也  
あくるくあより右のい乃をまへし陰陽和合と  
い進をりあは能よりあへし陰乃陰陽の陽と  
舞もあり水無漸定あ乃はまの山あくる人の  
幽冥のりくあとい陰乃陰なり又いちりり  
舞城門あとい陽乃陽也い此事一城もつて  
いの能の位分別をへし

あはあより陰乃位分別してそく此仕  
舞りけりんも也大才能乃極意七十  
一ヶ条は巻よ書終も末代よをのてい  
古人の尸をうまひ事し人こみあり  
くる人よりあはる人のい乃進くの尸度  
ましく口よまうせ尸あはるひと云  
事も秘ると云事もつてつてつて  
ましくあはる事城かあへしつて

親世高阿弥今春吾作かう志や連阿弥  
出んわうそうせつは四人よわがきて  
昔今の徳藝のわうのたぬ是をうき  
志るし花傳書と号しのうをうき  
事一私るわうの上を以是を撰一  
志るを統の天下此市たまあるゆへに  
くうんせよ是成くたう給りりぬ

